

2019
LA訪問団
報告会

2019.06.15
@明治大学

ロサンゼルスで 戦略的な労働運動を 学んできました



今年1月、ロサンゼルス教員組合(UTLA)は、30年ぶりのストライキに突入しました。公教育を取り戻そうとする「生徒たちのためのストライキ」は地域社会を動かし、ロサンゼルス市庁舎前は、6万人を超える教員やストライキを支持する生徒・保護者たちで埋め尽くされました。

様々なルーツを持つ移民や女性たちが中心となり、Common Goodの実現を目指して資本主義と闘う、戦略的で開かれた労働運動の力。2月にロサンゼルスを訪問し、その活動を学んだ労働運動家や労働弁護士が、ロサンゼルス労働運動の今を報告します。

日時: 2019年 6月15日(土) 14:00~17:00(開場13:30)

会場: 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー14階 1145教室

参加費: 無料 ※当日参加可。資料準備の都合上、なるべく事前申し込みをお願いいたします。

※事前申込み: 2019LA訪問団 Email: suga@tokyolaw.gr.jp

共催: 2019 LA訪問団/明治大学労働教育メディア研究センター/法政大学
フェアレイバー研究所/Labor Now/(特非)東京労働安全衛生センター

ロサンゼルス改革派労働運動



1980年代以降、ロサンゼルス(LA)では、中南米やアジア系の移民や女性たちを中心とした、改革派労働運動が広がりました。

現在では、SEIU(全米サービス従業員組合)など様々な労働組合の地域支部、UCLAレイバーセンターやLAANE(新しい経済のためのLA連合)などの「シンク&アクトタンク」、そして地域密着型で労働問題に取り組む「ワーカーズセンター」など様々な団体が密接に連携し、Common Good(すべての労働者に関わる社会全体の利益)を闘いのゴールに位置付けて、コミュニティ全体を巻き込む戦略的かつ能動的な労働運動が展開されています。

今回の報告会では、

- ◆ UTLAの2019年1月のストライキ
 - ◆ SEIUが取り組む、ファストフード労働者の最低賃金15ドルキャンペーン
 - ◆ シンク&アクトタンクによる戦略的な調査活動
 - ◆ KIWA(コリアタウン移住労働者連合/ワーカーズセンター)の地域密着型の活動
 - ◆ LOSH(UCLA労働安全衛生プログラム)の労働者参加型ワークショップ
- …などを中心に、LAの労働運動の最新状況を報告します。

2019 LA訪問団



アイリーン・イノウエさん(UTLA書記長/中央)や、ケント・ウォンさん(UCLAレイバーセンター所長/中央右)と記念撮影する訪問団メンバー(2019年2月)

2019年2月1日~11日にかけて、高須裕彦さん(法政大学フェアレイバー研究所)のコーディネートにより、ロサンゼルス改革派労働運動(コミュニティと連携する社会運動ユニオンズ)を学ぶ訪問企画が実施されました。

この企画には、日本の労働運動家および労働弁護士、計6名が参加しました。

【訪問団メンバー】

- 高須 裕彦 (法政大学フェアレイバー研究所)
- 清水 直子 (プレカリアートユニオン)
- 鶴丸 周一郎 (名古屋ふれあいユニオン)
- 川上 資人 (弁護士、東京共同法律事務所)
- 菅 俊治 (弁護士、東京法律事務所)
- 天野 理 (東京労働安全衛生センター)

会場アクセス

- JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
- 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩約5分

